

2023 年度 学校関係者評価委員会 議事録

専門学校 YIC リハビリテーション大学校 会議室

2023 年 6 月 28 日（水） 15：00～16：30

出席者：外部委員

- A 委員 専門学校 YIC リハビリテーション大学校 保護者
- B 委員 専門学校 YIC リハビリテーション大学校 理学療法学科卒業生
- C 委員 専門学校 YIC リハビリテーション大学校 作業療法学科卒業生
- D 委員 有識者 理学療法士
- E 委員 有識者 作業療法士

出席者：学内

- H 校長
- I 副校長
- J 事務長
- K 校務課長
- L 教務係長
- M 理学療法学科長
- N 作業療法学科長
- O 学校関係者評価委員会担当

1. 校長挨拶 (H)

世の中はコロナの第9波というような話もあるが、「ポストコロナ」ということで進んでいる。そういうことで、当校も徐々にではあるが、従来の形に戻りつつあるというのが現状ではないかと思う。ただ、医療系の学校であるため、病院や施設に臨床実習に出ている学生がいるので、世の中の一般的なものに比べると厳しくせざるを得ない面がある。

また、学生もコロナのない社会に慣れていないということもあり、学校行事や学生主催のイベントなど、高校生活を含めやったことがないという場合、教員が一つひとつ教えなければならないというのが現状である。しかしながら、教員も学校行事を3、4年行っていない為、段取り等を忘れてしまっていることもあり、「ポストコロナ」の中で元に戻るというだけではなく、修復する、作り直すということが必要になっていくと思われる。

本日は、委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場から本校の現状に対する評価をしていただくと共に、私たちが気付かないことをご指摘いただきたい。

2. 学校関係者評価委員会自己紹介

3. 定足数確認、委員長の選出 (I)

定足数確認. 委員 12 名, 過半数以上の出席により本会議は成立する.

委員長に D 委員, 副委員長に E 委員を推薦. 全員の賛同により承認された.

4. 議事 (D 委員長, E 副委員長)

(1) 2022 年度の報告

①2022 年度自己点検評価結果の検証 (L)・資料 2022 年度自己点検・評価報告書

1. 評価項目は昨年より追加・変更し、時代に合わせた項目としている

2. 評価が「1」～「3」の項目について説明

3. 課題と今後の改善方策について説明

<質疑応答>

学校運営

2-3-5 について

D 委員 職員には周知共有はされているのか。

H 周知をしていない。グループ全体なので、この学校に関することはほとんどない。財務的なことは別途公開されている。職員に理事会の議事録を公開しても公開しなくてもあまり変わらないと思うが、公開をするならグループ全体で考えないといけないと思う。

D 委員 関連することぐらいを伝える程度で良いと思う。

2-4-6 について

D 委員 運営上支障がなければ問題ないと思う。

教育活動

3-2-3 について

D 委員 以前はコマシラバスを作成していたが、今は作成していないのか。10年ぐらい前は作成をしていたがそこからあまり科目内容の変更もなく、その後、担当が変更になった科目もたくさんある中で今はルール化をして作ろうとはしていない。

学修成果・教育成果

4-4-2、4-4-3 について

B 委員 一度途切れてしまった期がある。その時に役員が辞めてしまい、その後の動向が追えなくなっている為、現在は後から入った役員には LINE だけでも繋がっておき、同窓会がある案内などもしっかりと伝達できるように伝えている。特に最初の頃の期が抜けてしまっているということが同窓会の中でもあがっているので、今後繋がりがなくならないように同窓会のほうでも注意しながら、また、調査したいという時に同窓生をある程度把握しておくことは大切なことなのかと思う。同じ期の人たち同士であれば気軽に話ができると思うので、詳しい話を聞

くことができるかもしれない。同窓会のほうでも注意してみようと思う。

H 他和学校も苦労している。卒業をして何年もすると最初の就職先は把握できるが、その後の把握ができない場合が多い。把握できる何か良い方法があればと思う。

B 委員 丁寧に戻してくれる方もいる。就職先が変わったなど、お知らせをくれる方もいるが、大半は教えてくれない場合が多い。

H ぜひ同窓会と連携してできると良いと思う。

D 委員 同窓会の運営費はどのようにしているのか。

B 委員 学校の卒業時に一度いただいて、そのお金で運営をしている。

M 一度見失った学生は見失ったままなので、全数把握することはできない。ただ教員も同窓会を担当しているので、全く把握できていないのは数十名ぐらいだと思う。割と把握できているほうだと思う。

学生支援

5-2-8について

B 委員 県外に出ていくことは学校としては拒んでいるわけではない。ちなみに県外にどのくらいの割合で就職するのか。卒業される方の何割ぐらいが県内に残って県外に行くのか。

N 作業療法学科はほとんど県内で就職する。年によっては1名いるぐらい。

M 理学療法学科は、去年は10名ぐらいが県外に就職した。すごく多かったと思うが、県内県外どちらも就職先を探している学生もいる。また、積極的に県外に出たいという学生もいる。昨年度は、関東圏で大きい病院をいくつも経営している病院に一気にたくさんの学生が就職したので私も多くの学生が県外に就職をしたと思う。

毎年県外に行く学生は何名かいる。その数が増えてきている印象はある。ただ県内の就職がなくなっているわけではない。

I コロナの影響かもしれないが、県外に出て遊びたいなどの気持ちもあるのかもしれない。就職面接がオンラインで行われているのでそういう手軽さもあるのかもしれない。

M 関東のグループ病院はオンライン面接だった。

B 委員 今後もオンライン面接になっていきそうか。

M そうなると思う。

I 就職説明会もオンラインで行っている。理学療法士がオンラインで説明をする。また、病院がPR動画を作成していて、学生がその動画を見ている。

B 委員 コロナ前はなかったのか。

I なかった。

B 委員 昔だと絶対病院に行かないといけなかったと思う。

I 病院のグループが大きければ大きいほどその機動力があり、手軽に就職活動ができる印象がある。

D 委員 宇部小野田近辺に勤務したいが、うまく就職に結びつかない学生もいるのか。

I 少なからずいる。地域を限定するのは難しい。県内だったらまだ良いが、宇部市でないとダメとなると、タイムリーに見つかれば良いが、募集が終わっている病院もある。

- M 宇部市内で探すと当校の学生同士も競合する。
- H この学校としては YIC の校名にあるように地域への貢献を使命としているので、地域への就職は前面に出していく必要がある。
- E 委員 オンライン面接というのを初めて聞き、動画の P R というのも今の時代だなど。県内や市内の病院にこのようにしていることを伝えていただくと、県内の病院も面接等に行かなくても施設のことは知ってもらって、興味を持ってもらいやすいかもしれないと思う。

教育環境

6-1-4 について

- B 委員 図書館の紛失について良い方法がないか考えてみた。やはり防ぐことは難しいのか。
- I 開校当初から紛失はある。全数把握するのが難しい。目録や備品台帳などを利用して数をすべて数えたこともある。ただ今は、ジャーナルなどが電子化したことで学生は調べようと思ったらすべてオンラインで検索して調べることができる。よって、最近の本の紛失などはない。本が古いということもあるが。貸出ソフトが古いということもあり、貸出のシステムを止めている状態。そのあたりを検討しているところである。
- K 電子でないジャーナル類は鍵をかけた場所で保管をしていて希望があれば貸出を行っている。
- H 図書館の機能事体が変わっているのので、最近の指定規則では図書館がなくても良い、となっている。
- B 委員 学生の要望もなく、特に問題がなければ評価を変更しては。
- K 教科書に最新の情報がのっている。図書の情報も古いと思う。

社会貢献・地域貢献

10-2-5 について

- D 委員 健康教育サロン自治会館等における講座等が 42 件とあるが学生はどういう感じか。ある程度学年を絞って現場に出す感じか。
- K 基本的に学生は数回程度。授業の中で 1 回か 2 回かあるぐらい。それを増やしていくにはカリキュラムから見直さないといけない。教員が宇部市の事業を受託したことでこの件数になった。

国際交流

11-1-6 について

- D 委員 国際交流はオンラインを利用して行わないのか。
- I オンラインは行っていないが、国の大学との交流はある。コミュニケーションもとっている。
- M オンラインも考えたが、画面でつないでも交流にはならないのではないかと思行わなかった。
- I 今後復活にむけて、今年度内に 1 回こちら側から行くことができたらいいなと思っている。
- H オンラインで国際交流ができるのか、現実的には語学などそういうこともある。ボディランゲージも含め何も無い所から急に始めるのは難しいと思う。お互い話が進まないと思う。コロナが明けたらまたやりましようと言っている。

①について、全員一致で承認した。

②2022 年度学科報告 (M/N) ・ ・ 資料 2022 年度学科報告資料

< 質疑応答 >

②について、全員一致で承認した。

③2022 年度重点項目への取り組みの検証 (I) ・ ・ 資料 2022 年度重点項目への取り組み

重点項目 (1) 入学者数増

重点項目 (2) 国家試験合格率 100% 達成, 国家試験対策教育の充実

重点項目 (3) コロナ対策の徹底, 脱コロナに向けた取り組み

について、資料をもとに説明した。

< 質疑応答 >

重点項目 (1) について

D 委員 重点課題 1 の課題は継続的な課題ということで難しいかと思うが、入試で落とすこともあるのか。

I 全員が入学できるわけではない。

D 委員 もし合格者全員が入れば何割ぐらい埋まるのか、8 割近くにはなるのか。

I 8 割ぐらいにはなるかと思うが、たくさん落としているわけではないので、定員を満たせるほどは集まっていない。

H 皆を合格させると、休退学率があがると思う。

D 委員 併願者の入学がない状況、数年前までは併願の学生が大学不合格で当校への入学もあったが、大学も学生を集めるのに苦労しているようなので、当校の入学率にも影響しているのではないかと思う。

D 委員 4 年間で確実に理学療法士作業療法士になれる安心感を保護者や子どもに伝えられると良いと思う

重点項目 (2) について

B 委員 国試を受けている学生は 26 名いるが、卒業生は何名いるのか。

M 卒業生は 27 名。

B 委員 毎年思うのが、線引きをしてこの学生は受けさせないというようなことを学校ではしていないのか。

I 開校以来していない。

また、卒業した学生が受験したかどうかはこちらでは分からない。

数年前の卒業生の情報は追えない。

B 委員 全員が受験をしているのであれば合格率が低いとは感じない、他の学校を見ても合格率 100% の学校は卒業生全員が受験できているわけではなさそう。通常の試験などで受験できなくなったなどで回避している学校は多いと聞いている。

E 委員 早めの指導が望まれるというのは 4 年生の指導を早めにするのか、学年を早めに指導するのか。

- I 両方です。
今年度の4年生に関しては実習時期を2週間早めた為、少し早めに国試の取り組みができると思う。
1年生は解剖学、生理学など基礎科目に対して勉強をしたことを、週に1回、国家試験で出題された問題で練習問題をさせている。
- H 4年生で基本的に落とさないということになっている。
合格率を100%にするには低学年からそれなりにやらないといけないと思う。それしか方法がない。そういうことになるとここに挙げているように1年から3年で数年前に比べるとかなり勉強をさせる仕組みを実施している。もしかしたら低学年から忙しくなったと思っている人もいるかもしれないが、最終的に国家試験の合格に結び付けば良いと思っている。
- E 委員 先輩から国家試験に対するアドバイスなど先輩、後輩の交流はあるのか。
- M 国家試験についてはないと思うが、期末試験についての試験対策などの情報提供を行っているようだ。
- E 委員 先輩からのアドバイスなどがあれば良いのかなと思う。
学生のがんばれるきっかけになればよいと思う。
- I 以前は先輩を招いて少し話をしてもらっていたが、最近はコロナもあり行ってない。今後また行うことを検討したいと思う。
- D 委員 今、入学している学生の国試の難易度は10年、15年前に比べるとどうか。
- I 客観的な数字に表すことはできないが、国試の難易度的には先日、業者の方と話す機会があり、聞いたところ難易度は変わってないとのこと。また新しいカリキュラムがこの4年生からなので大きくはかわらないだろうという見通しもあるようだ。
入学生の学力は確実に少しずつ下がっていると思う。
- M 進学データを見ると、偏差値が低いと言われているようだが、そんなにすごく学力が下がっているという印象はあまり感じない。
- N 2分化している。できる学生はすごくできるが、できない学生はすごくできないという差が大きくなっているのかなと思う。自身が当校に勤めだしてからだが。
- D 委員 昔よりも国家試験の範囲も広く傾向も単純さがなくなっているのかなと思う。学力もといところの状況で新卒が94%というのはかなり良いのではないか。学校はもちろん100%を狙われると思うが、90%台は客観的には安心できる良い数字だと思う。
教員の努力がしっかりと数字に出ていると思う。
- M 昨年度の国家試験の合格率は高かったという印象があるカリキュラムが変わる最後の4年生の試験だったおかげなのかもしれないが、全国的にも良かったのではないかなと思う。

重点項目(3)について

- E 委員 3月に学園祭の様子をFacebookで拝見した。学生は楽しく参加できていたと客観的に感じたが学園祭などの集まりがあると学年間の交流も生まれ、良い機会になったと思う。学生の感想はどうだったか。
- M 4年ぐらい学園祭を行っていなかったので参加したことがない学生ばかりだった。教員も楽しくかなり盛り上がったのは良かったのかなと思う。教員との間で、この4年生が一番かわいそう

だと話している。この4年生から1年生の宿泊研修がなくなり、学園際も実習の前だったため参加できず、何も体験していない。実習後何か企画ができないか検討をしようと思っている。

E 委員 学生間の交流が実習にも生かされていくと思うので今後もある良いと思う。

また地域にも向けられていくとより良いと思う。

③について、全員一致で承認した。

(2) 2023年度の計画

●2023年度重点項目について (I)・資料 2023年度重点項目への取り組み

重点項目(1) 定員充足

重点項目(2) 国家試験合格率100%達成, 国家試験対策教育の充実

重点項目(3) データ管理に関するマニュアル作成

資料をもとに説明した。

<質疑応答>

重点項目(1)について

A 委員 今Y I Cが行っている「まちなか保健室」で地域に貢献しているが、自身が地域包括で働いているためよく耳にしている。Y I Cは福祉の業界の中でも知名度が高いので、学生との授業の兼ね合いもあり、参加するというのはなかなか難しいということ言われていた。インスタなどで時々参加している様子を拝見するが、学生と教員の取り組みを地域の方に情報発信していくことで高齢者から孫に情報が行き渡り、Y I Cへの進学を目指してくれると入学者が増えていくのではないかなと思うので、これからも続けていくと良いと思う。

D 委員 Y I CのCMをよく見る。県内、理学療法学科、作業療法学科の学校があるが、だいたい山口の学校か宇部の学校かというところで、どっちが良いかという話になる。こういう時に「Y I Cが良い」言える強みがあると説明もしやすいと思う

E 委員 現場の中でなぜこの職業に決めたのかと聞くと、母親が医療系の場合が多く、子どもに理学療法士、作業療法士をすすめていることが多い。介護や医療系の中だと母親がすすめているということが大きいのかなと思う。

自身も、よくどこの学校が良いのかと聞かれることがあるが、どこの学校も良いと答えている。学生本人もそうだが、親の影響が大きいと感じたので、学生にだけではなく親世代にも訴えかけるようなものが何かあると良いのかなと思う。

D 委員 特徴、強みがあると良いと思う。

重点項目(2)について

A 委員 子どもが今2年生にいる。入学してすぐ国家試験の取り組みを行うと教員から聞いていたが、本人からすれば学習したこともまだまだごく一部だったので、いきなり国家試験の問題にチャレンジするのは解けない問題が多かったようだ。しかし、この1年勉強して先輩とも情報共有を行っているようだ。教員から長期休みに課題を出すことを検討していると聞いたので、子どもにそれについて尋ねてみたら、先輩からも課題についての情報もあり意識が変わってきたよう

な気がする。

国家試験も数ヶ月でできるようなものではないと分かっているので、長期的に取り組むことはすごく良いことだと思う。先生方のご指導もあり、すごく助かっている。

H 低学年からやっていくということで、1年生の科目で習ったことは4年後までに再度学習せず、そのまま国家試験に出てしまうため早くから勉強をしていかないといけないと思う。授業のスピードとももちろん連動させて考えていかないといけないと思う。意識が変わってきたと言っただけだとありがたい。

A 委員 1, 2ヶ月近くお休みがあり、学校が遠のくとその間にしっかり勉強しないとリセットしてしまい、また新しいスタートラインに立ってしまうともったいないと思う。ほどほどに課題を出してもらえると嬉しい。

重点項目(3)について

K いろいろとペーパーレス化で MyiD を使用してみたが、保護者の立場からいかがか。

A 委員 今回の保護者会の出席もアプリを使って出欠を返信したが、とても便利だと思った。

郵送されたものは見終わったらゴミになってしまうことが多く大変だったが、そこも有効活用でき良かった。

I 小中高もそういう取り組みが増えている。

今回配布している年報も今年は印刷会社を利用せず、当校で印刷している。

情報公開はPDFで行うため特に問題はない、毎年300部ぐらい印刷会社をお願いしていたが、かなり余ってしまうため今年度は当校で印刷することで経費削減を行った。

D 委員 連絡事項は携帯で行うのか。

I スマホを利用する。

スマホを持っていない方は個別に対応している。

2023年度重点項目について、全員一致で承認した。

(3) その他

<質疑応答>

4. その他 (F)

(1) 学校の年間予定について

(2) 学校パンフレット・募集要項・年報について

募集要項で総合型選抜試験が新たな出願区分として加えたことを説明した。

以上

議事録作成者:O